

特別陳列 鈴木治男 共生の森【近現代絵画】



鈴木治男〈リセット〉2014年
—「鈴木治男 共生の森」より—

- 特別陳列 加賀藩の美術工芸Ⅰ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 石川の文化財【古美術】
- 秋の優品選【近現代工芸】
- 企画展 美術館創設60年のあゆみ 石川の美術
- 特別陳列 前田家の名宝Ⅱ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 特別陳列 よみがえった文化財
—修復工房の修復実績—【古美術】

- 10月の企画展示室
- ミュージウムウィーク・10月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

第4展示室

特別陳列 鈴木治男 共生の森 【近現代絵画】

10月12日(土)～11月17日(日) 会期中無休

学芸員の眼

洋画家・鈴木治男は絵画制作の他に、自身の作品からストーリーをつくった作品集や日常のあらゆる場面を一コママンガにした小冊子を出版しています。

いくつかある出版物の中で、本展覧会に大きく関わるのは『共生の森から 鈴木治男の画文集』（平成二十九年、私家版）でしょう。共生の森と題した作品群もさることながら、随筆も愉快で、クソツとしてしまうお話もあります。

絵画「共生の森」シリーズは、平成十二年頃から二十四年の東日本大震災の前に展開していました。自身の住まいの周りの雑木林や散歩道に潜むあらゆる生き物たちが気になり、「みんなこの森で生きている」という思いで、制作しているといえます。本展出品作の《共生の森A》（《鳥たちの森》を改題）が、このシリーズの始まり。家の周囲に住む鳥たちを題材とした作品で、朗らかな雰囲気の商品です。



鈴木治男《共生の森A》

本展は画家、造形作家として活躍を続ける鈴木治男の、初期から近作までの絵画作品を一堂に会するものです。

抽象と具象、二つの領域を往来する鈴木治男の絵画は、カラフルな色彩と自在に飛び交う線による画面が幾層か重なって構成されます。下層を透かしたり、上層を擦れさせたりと表現方法は様々で、それは思いを述べるだけでなく、素材の特性や絵肌を重視し、どう思いを伝えるかを考えぬいたものであることを示しています。

展示は、修業期、模索期、画風確立期、現実反応期、共生の森シリーズ、水の記憶シリーズと六期に区分し、作者の詩情と造形、創作のあゆみをご覧くださいます。

なお、会期中の十月二十六日(土)午後一時半から

美術館ホールにおいて、作者を講師に「私の歩み 五十年」と題し、講演会を行います。聴講は無料です、ぜひご来場ください。

鈴木治男 略歴

昭和二十二年茨城県生まれ。四十九年金沢美術工芸大学美術学科油画卒業。五十年金沢にて初個展、以後金沢や東京等で毎年個展開催。五十一年金城短期大学開学と同時に講師となる。(六十二年助教、平成四年教授)。五十六年、メキシコ、ベラクルス州立大学美術学部にて研修(私学在外研修員)。六十一年自由美術協会展初入選、以後平成六年まで出品。平成三十二年日本海造型展出品、以後二十年まで出品。二十二～二十六年金城大学短期大学部学長。現在 日本美術家連盟会員、石川県美術文化協会会員。



鈴木治男《共生の森》金城大学蔵

学芸員の眼

紙面の関係で、重文《豊明絵草紙絵巻》は本欄で紹介しします。十三世紀半ばころから、彩色を用いない白描の絵巻が数多く制作されるようになり、本作はこうした白描絵巻の代表作の一つです。内容は、若くして中納言となり、美しい妻をめぐり子供にも恵まれ充実した生活を送っていた貴公子が、やがて妻を病で失い、それを契機に世の無常を悟り、隠棲して念仏三昧の生活を送り、さらなる悲運に見舞われながらも往生を遂げる説話です。作者は未詳ですが、文中の漢籍や仏典の引用が十三世紀末、後深草院の寵愛を受けた二条の日記』とはずがたり』に類似すること、さらに二条には画才もあつたことから二条の作とする説があります。余談ですが画中に後世色を点じた箇所があり、私は見る度に苦笑を禁じ得ません。

今回は会期中の十一月一日から七日が「文化財保護強調週間」となることから、特に加賀藩の美術工芸における「名品の収集」の側面に注目し、国宝《水左記》と、《枕草子(第一帖)》、《豊明絵草子絵巻》、伝雪舟筆《四季花鳥図》(三点点いずれも重文)を同時に展示します。

まず国宝《水左記》をご紹介します。これは平安時代中期の左大臣・源俊房(一〇三五～一一二二)の日記で、筆者の姓(源)の偏、さんずい水と官職(左大臣)の左を合わせてこのように称されています。また筆者の家号(土御門)にもとづき《土左記》《土記》とも呼ばれるほか、筆者の邸宅があつた(堀河)にちなんで《堀河左府記》とも呼ばれます。一〇六二年(康平五)から一一一三年(永久元)までの記録が伝えられ

ており、撰関期から院政期にわたる朝廷の儀式や政務などを知る貴重な史料です。

筆者の俊房は村上天皇の曾孫で、母は藤原道長の娘・尊子という血統です。公事に詳しく、文学、学問に造詣が深く、能書家としても知られています。《水左記》の自筆本は八巻伝存しており、今回は前田育徳会が所蔵する二巻のうち、承暦元年(一〇七七)秋冬記一卷を全巻公開します。

続いて重文《枕草子》ですが、これは改めて述べるまでもなく、有名な清少納言の随筆『枕草子』の古写本で、本作は現存する写本のうちで最も古いと筆写とされています。章段の配列は他の諸本とは異なり、類似の写本が存在しない点でも、研究史上も貴重な資料と認識されています。

第5展示室

秋の優品選 【近現代工芸】

10月12日(土)～11月17日(日) 会期中無休

近現代工芸「秋の優品選」では、企画展「美術館創設六十年のあゆみ 石川の美術」で展示しきれなかったさまざまなタイプの作品をご紹介します。

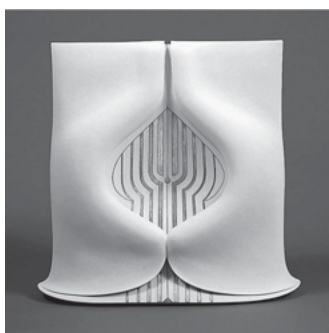
工芸作品というとなにか用途をもった器物であり、用と美の両立を目指すものであるという考え方があります。石黒宗麿の《絵唐津徳利》や《黒釉坏》、《三彩坏》などは、まさに、酒を呑むという用途と、器形の美しさが調和した作品であるといえます。

一方、用途にとらわれず、素材そのものの魅力を引き出したり、抽象的な造形を追求する作品もあります。木田弘之の《オブジェ「念」》や南部勝之進《オブジェ》は、それぞれやきものと金属という素材の質感を活かしながら、造形的な面白さや形の美しさを重

視した作品となっています。

また、秋らしいモチーフの作品も数多く展示します。紺谷力《彩塑人形「豊穰の喜び」》は、実った稲穂を手に、豊穰を寿ぐ踊り子の姿を、竹田有恒《釉裏金彩穂波文鉢》は、たわわに実る稲穂の様子を、透明釉の下に金箔を用いる釉裏金彩の技法で表現しています。いずれも、実りの秋を感じさせてくれる作品です。その他、山田義明《色絵秋海棠文飾皿》や武腰潤《色絵春秋草花文台皿》など、清楚な秋の草花を描いた作品などをご覧いただけます。

美しい秋のひとときを、工芸作品を鑑賞しながらお過ごしください。



木田弘之《オブジェ「念」》

第2展示室

石川の文化財 【古美術】

10月12日(土)～11月17日(日) 会期中無休

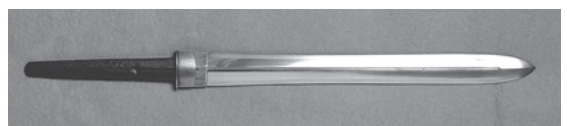
文化に親しむ秋。十一月一日から七日までを「文化財保護強調週間」としてこの時期には、歴史的建造物や美術工芸品の特別公開をはじめ、あちこちで文化財に関わる催しが開催されます。当館では毎年、県内に所在する指定文化財の数々を公開することとしています。

石川県内には、美術工芸品で国宝二件を含む重要文化財が八十八件所在しています。分野別にみると、絵画九件、彫刻十七件、工芸品二十三件、書籍・典籍二十一件、古文書十件、考古資料八件という内訳となります。また建造物は四十五件、八十三棟を数えます。

この数は富山・福井両県をしのぎ、全国的に見ても上位に位置づけられます。こうした文化財が石

川に伝わるのは、加賀藩主前田家の文化政策が大いに貢献しています。前田家が収集し、育成した数々の名品が、時代を超えて今日に引き継がれているのです。また、その歴史的背景を基盤とした今日の文化風土は、芸術・文化全般に対する関心の高さを物語っています。

今回の展示では「石川の文化財」と題して、国宝・重要文化財・石川県指定文化財を紹介します。見どころは当館が所蔵する《色絵雉香炉》と白山比咩神社所蔵の《剣 銘吉光》で、いずれも国宝です。現在石川には二件の国宝が存在するのみで、それを同時に見ることのできるまたとない展観です。ぜひこの機会にご覧ください。



国宝《剣 銘吉光》白山比咩神社蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館

特別陳列

前田家の名宝Ⅱ

【古美術】

8月31日(土)～10月7日(月) 会期中無休

第1・3～9展示室

美術館創設60年のあゆみ

石川の美術

8月31日(土)～10月7日(月) 会期中無休

昭和三十四年、兼六園の石引口に石川県美術館が開かれて今年で六十年になりました。現在地に移って名称を石川県立美術館としてからも三十七年となります。旧館の開館当初は国宝《色絵雉香炉》をはじめ寄附を受けた作品などでスタートし、石川県が所有していた美術品を美術館に保管換えるなどして、徐々に所蔵品は増えていきました。

旧館時代の作品収集は、江戸時代の前田家の保護育成政策により文化の華が開いた石川の芸術展個性を活かすという方針に沿って進められました。そこでは古美術と伝統工芸品に主眼が置かれていたため、近現代美術、とくに日本画・油彩画・彫刻の各部門の作品収集は、新館の建設準備段階に入ってから行われました。

現在、収蔵作品は三九一六点を数えます。その内容は、古美術から現代美術まで、それも各分野にまたがっています。そこに共通しているのは、何らかの意味において石川県ゆかりの作品であるということですね。また収蔵品の多くは篤志家や作家自身の寄附になるもので、心より感謝の意を表しますとともに、今後とも当館の活動に、ご協力ご援助をお願いする次第です。

本展は、美術館創設から六十年の節目を迎えたことを機に、当館を代表する秀作群から選りすぐりの優品を紹介するものです。石川の美術をあらためて認識し、石川県立美術館の個性と魅力に触れていただくことができれば幸いです。



高光一也《裸婦》

前回の「学芸員の眼」で、前田利為の音楽コレクションの白眉であるJ. S. バッハの自筆楽譜を紹介しましたが、今回は、同時に展示されているW. A. モーツァルト（一七五六～一七九一）の自筆楽譜について述べたいと思います。これは表面に自作の《ピアノ協奏曲第二十六番「戴冠式」》第二楽章のスケッチと、《弦楽五重奏曲》（K. 五一六）終楽章のためのスケッチが記され、裏面に詳細がわからないオペラ・セリア（神話や伝説に基づく真面目なオペラ）のスケッチと、《クラリネット五重奏曲》（K. 五一六d）のための

のロング楽章の断片が記されています。使用されている五線譜の特徴や、《弦楽五重奏曲》が一七八七に完成していること、さらにピアノ協奏曲「戴冠式」の完成が一七八八年二月であることが

ら、少なくとも表面は一七八七年に書かれたと考えることができます。そこで、ここに記されているのが《スケッチ》であるという事実に変更して着目したいと思います。

ミロス・フォアマン監督の映画《アマデウス》に、ウィーンの宮廷付作曲家サリエリが、モーツァルトの修正箇所が全くないオリジナル総譜を見て賛嘆する印象深いシーンがあります。これは、楽曲はすべてモーツァルトの頭の中で完成しており、彼はそれを書き写すだけだったという十九世紀の「モーツァルト神話」に基づいたものですが、今回展示している《スケッチ》の存在は、この「神話」の反証としても重要な意義を持つものです。

《ピアノ協奏曲第26番スケッチ他》モーツァルト

十月の企画展示室

第2展示室

特別陳列

よみがえった文化財

—修復工房の修復実績—

8月31日(土)～10月7日(月) 会期中無休

現在展示中の作品は、昨年度文化財保存修復工房が手がけた四十件の中から、重文・富山県文、加賀・白山・金沢の各市文を中心とした十件の修復文化財です。修復前の状態や修復工程は写真や解説パネルを用いて補い、修復の成果とあわせて紹介しています。

「石黒信由関係資料」の修復は、二〇〇三年より携わり、今年度も行っています。この資料は、越中国射水郡高木村(現在の富山県射水市)に生まれた江戸時代後期の和算家で測量家の石黒信由以下四代にわたる和算・天文暦学・絵図作製・航海術に関する貴重な資料で、約二一、〇〇〇点が今日に伝えられています。そのうち三、七〇〇点あまりが重要文化財に指定されていますが、本年追加指定され、総指定点数が六、〇〇〇点を越えました。修復作品の絵図や文書記

録類は、汚損除去や虫喰の繕い、劣化部分の補強、ずれの修正などを行いました。昔は大きな和紙を漉くことが出来なかったため、絵図は何百枚もの和紙を張りつなぎ作製されています。そのため、経年や保存状況等により、例えば糊離れは過去の修復では応急処置的に貼り付けられていたために、絵図の文字や線にずれが生じた状態で伝えられており、その解消を行い制作当初の精度の高い絵図がよみがえりました。こうした地道な作業を行う修復工房が文化財を守り伝えていくための現場であり、美術館はこうした文化財を公開し、その歴史的価値を伝えていくための装置です。修復工房のある美術館の活動に、これからも関心を持ち続けていただければ幸いです。



加賀市文《実性院御霊屋地袋襖》より「獅子之図」 実性院藏

日展石川会は、県内在住の文化勲章受章者、日本芸術院会員を始めとする日展所属の作家で構成されています。平成二十九年年度以来五回目となる今展は、昨秋東京の国立新美術館で開催の改組 新 第四回日展に出品された大作を中心に百数十点を展示します。

◆入場料／八〇〇円(高校生以下無料)

友の会は一〇〇円引き

◆連絡先／北國新聞社事業局内「日展石川会」事務局

電話・〇七六一二六〇一三五八一

第7・8・9展示室

第5回

日展石川会展

10月12日(土)～21日(月) 会期中無休

兼六園周辺文化の森

秋のミュージアムウィーク

兼六園を中心とする半径約1kmの範囲は、藩政期から近代に至るまで各時代の歴史が重層的に集積する石川県を代表する緑豊かな文化空間となっております。数々の文化施設や公園緑地が整備されています。石川県では、このエリアを「兼六園周辺文化の森」として、各文化施設での展覧会や、施設間で連携したミュージアムウィークの開催などを通して、文化の創造と交流、ふれあい空間の創出をめざしています。

この秋も十月二十日(日)から十一月四日(月・振休)の期間に、各施設でさまざまなイベントを行います。当館関連のイベントをご紹介します。

◆いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム

いしかわ工芸の巨匠に聞く「九谷焼」

講師：吉 田鏡氏(重要無形文化財「釉裏金彩」保持者)

武腰敏昭氏(日本芸術院会員)

日時：十月二十二日(火・祝)十三時三十分～十五時

会場：当館ホール(先着順)

申込：前日までに左記まで電話

◆文化講演会「終わりから始まる物語」

～日本文学～から見つめる社会・文化のあり方

講師：ロバート・キャンベル氏(日本文学研究者、国文学研究資料館長)

日時：十月二十三日(水)

会場：当館ホール(定員二〇〇名)

申込：往復はがきに住所・氏名・年齢・電話番号・人数を記載して、左記まで

(はがき一通につき二名まで応募可)。十月三日(木)必着。

〒九二〇一八五八〇(住所不要)石川県文化振興課

「ロバートキャンベル氏講演会」係

なおミュージアムウィークのイベントに関するお問合せは、左記まで。

兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会(石川県文化振興課内)

電話：〇七六一二二五一三三七一(平日午前九時～午後五時)

10月の行事予定

22日(火・祝)	企画展示室でスケッチGO! 10時～12時(受付は11時30分まで) 要観覧料 磁気式ボードを使って、お気に入り作品をスケッチしてみよう!
26日(土)	「私の歩み50年」 講師 鈴木治男氏(画家) 美術館ホール 無料
27日(日)	「色鍋島・今右衛門の伝統」 講師 今泉今右衛門氏(重要無形文化財「色絵磁器」保持者) 修復特別実演 ①10時30分～11時 ②14時～14時30分 石川県文化財保存修復工房見学スペース 無料
27日(日)	修復技術者が修復作品の解説や修復内容を紹介します。 美術館講義室 無料
5日(土)	「近代工芸と茶道具」 担当課長 寺川和子
12日(土)	「明治期の工芸教育 ― 納富介次郎の先駆性 ―」 担当課長 鶴野俊哉
6日(日)	「美術館創設60年のあゆみ」展ギャラリートーク 11時～ 要観覧料 担当学芸員が展覧会の見どころや出品作品について解説を行います。
13日(日)	「映像ギャラリー」 13時30分～15時 美術館ホール 無料 「シリーズ いしかわの文化財 ～建造物編～ 記憶への回廊」(25分) 色鍋島十三代今泉今右衛門」(30分)

《化石と少女》かせきとしょうじょ

脇田 和 わきた・かず

縦37.5cm×横51.7cm 昭和29年(1954) シンシナティ国際版画展(1956)
リトグラフ

明治41年(1908)～平成15年(2003)



平成二十七年に一般財団法人脇田美術館より、脇田和の作品三百七十七点の寄贈を受けました。その半数は油彩画ですが、版画作品も九十四点とそのコレクションの大きな位置を占めています。脇田和は「画家にして版画家」であり、脇田の版画の仕事は油彩画と密接に絡んで展開しています。

脇田和は十五歳からドイツに渡り、ベルリンの美術学校では絵画をはじめ、エッチング、リトグラフ、木口木版画の版画技術の研鑽を積み、美術学校卒業後も版画と深い関わりをもって過ごしています。それまで単色リトグラフしか手がけなかった脇田ですが、戦前、日本在住のロシア人、ワルワラー・ブノワ女史の色彩版画に魅せられて直接指導を受け、この作品は多色リトグラフの作品となっています。リトグラフは木版画や銅版画のように彫ったり腐食したりする複雑な工程は一切入らない、極めて自由な表現が可能で、加えてこのような中間色の発色が微妙な多色のリトグラフの魅力は、脇田の遊び心をとらえて離さなかったようです。シンシナティ国際版画展出品作品となる本作ですが、絶えずコンスタントに進められた版画制作が深まりを見せ、国際的な版画展の他、海外の個展開催を含め、脇田作品が世界で評価されはじめた頃の作品といえます。このような版画への姿勢やその実績から、昭和三十三年(一九五八年)に東京芸術大学に版画教室が開設されると、脇田は講師として招かれ、学生たちに版画の指導することになったのです。

次回の展覧会

令和元年11月22日(金)
～12月22日(日)
会期中無休

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

加賀藩の美術工芸Ⅱ

古九谷と
加賀蒔絵の至宝

第5展示室

第3展示室

第6展示室

東京国立近代美術館
工芸館名品展

古い物語
【近現代絵画・彫刻】

優品選
【近現代工芸】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

10月7日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

10月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

10月の休館日は
8日(火)～11日(金)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎ 092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 株票

石川県立美術館だより
第432号(毎月発行)
2019年10月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibipref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。